

『人と本を紡ぐ会』の紙芝居を広める活動

1 フリースペースでの紙芝居

『西南図書館』では、毎月第1・3土曜と長期休暇に視聴覚室をフリースペースとして開放。第3土曜の午後には『人と本を紡ぐ会』や紙芝居サークル『紙芝居まつぱくくり』のメンバーが演じる紙芝居を観ることができる。

2 街かど紙芝居 ふるさと箕面の民話紙芝居

幼稚園や保育園、介護福祉施設や各種イベント会場などに向向く『街かど紙芝居』。8月26日には『西南小学校』の祭り『西南ジャンボリー』へ。また同会制作・発行の紙芝居には、箕面の民話を題材にしたものも多く、子どもたちは楽しく箕面の歴史を知ることができる。



3 紙芝居にまつわる講座

紙芝居のノウハウがぎっしり詰まった内容。紙芝居作家や演者、紙芝居研究者が教えてくれる“プロ直伝”講座は必見。



「演じる講座」では毎回違った講師陣を招く。一人ずつ丁寧に指導してくれる



「ミニ紙芝居づくりコーナー」で真剣に取り組む子どもたち。「箕面紙芝居まつり」では三田市で活動している辻太一さんが体験会の講師をしていた



プロの演技が観られる人気イベント。読み手が作品に沿った“手遊びうた”をしたり、観客に質問を投げかけたりと参加型で楽しめる時も



「箕面紙芝居まつり」では紙芝居の販売も行う

とっても小さな演劇の世界を伝えていく

箕面と紙芝居

紙芝居の取り組みが盛んな箕面市。現在に至るまでのストーリー、そして紙芝居の文化を守り続ける市民の取り組みとは。

幅広い年代が楽しめる



絵の隣に立ち「演じる」のが箕面の紙芝居の特徴



2016年の受賞作品。市民の受賞作品は『箕面市役所』で毎年一定期間展示している

榎部恵子さん 紙芝居サークル『紙芝居まつぱくくり』に所属。今回のコンクールで、手話を題材にした『ボクのともだち〜もうひとつのことば〜』が中川正文名誉審査委員会賞を受賞

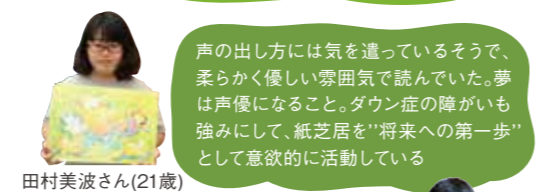
市民が知った、「絵本」とは違う「紙芝居」の魅力

梅雨明け間近の去る7月16日の午前10時前、『箕面市立メイプルホール』のロビーに「カンカンカンカン！」と威勢のいい拍子木の音が鳴り響いた。同時に「もうすぐ紙芝居が始まります！」と案内をかける声。『箕面市非常利公益活動団体 人と本を紡ぐ会』の代表・日根真理さんだ。「個性ある作品や演者揃いなので、今年もみなさん大いに楽しんでくれるはずですよ」と微笑む。この日は、第29回箕面紙芝居まつり。今や全国各地から紙芝居ファンが箕面へ駆け付ける恒例イベント。例年1500人以上の来場者があるそう。ここまで紙芝居の取り組みが盛んになった所以は何だったのか。それは、ある市民がひとつの紙芝居を観に行ったことがきっかけだった。30年以上前、人形劇団『出口座』(吹田市を主宰していた阪本一房氏)に出会った。当時、『箕面市立中央図書館』ではなし会を担当していた新井せい子さんたち数人は、阪本氏が演じる紙芝居を観に行くことに。その時、本の読み聞かせとはまた違う、演者によって伝え方が十人十色の「紙芝居の世界」に感銘を受けた。阪本氏に「楽しむだけでなく、思いを込めて作って、演じること。まずは自分たちで作ってみたい」と言われ、図書館の仲間や絵の得意な地域のひとと、早速制作に取り掛かった。作品が出来ることも、もっと多くの人に見て欲しいという思いに。市内の図書館の催しで、ボラ

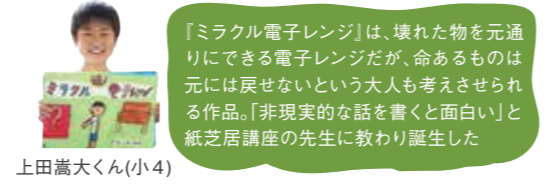
出演者にインタビュー



「登場人物によって、声の大きさや声色などに変化をつけるのが大変でした。」「気持ちを込めて読むこと、伝えることの難しさはあるが、とても楽しかった。」「ぜひまた参加したい!」。観客も「みんな良かったよ!」と声をかけていた



声の出し方には気を遣っているようで、柔らかく優しい雰囲気を読んでいた。夢は声優になること。ダウン症の障がいも強みにして、紙芝居を「将来への第一歩」として意欲的に活動している



「ミラクル電子レンジ」は、壊れた物を元通りにできる電子レンジだが、命あるものは元には戻せないという大人も考えさせられる作品。「非現実的な話を書く」と面白い」と紙芝居講座の先生に教わり誕生した

いなと思っています」と話す。実際に同講座を経て、コンクールへ応募する人も多いという。

演。出演者たちは演技力も高く、観客の心をつかんで大人も子どもも皆声を出して笑っていた。紙芝居は、演者の表現力と、次々と引き抜かれ変わる人たちのワクワクを掻き立てていく。

世代問わず楽しめる 小さな演劇を箕面市から

紙芝居という古き良き文化に慣れ親しんできた箕面市の人々。取材を通して感じたのは、子どもたちの豊かな感性と、紙芝居への熱い想いが根付く地元力。そして、今後も新たな紙芝居を作り、発信し、発信し続けていくという市民の意思。きつとこれから「小さな演劇の世界」の魅力は、箕面から多くの人たちへ伝えられていくことだろう。

作る・演じる・観る 紙芝居をもっと身近に

『人と本を紡ぐ会』(以下、同会)の発足は2000年5月。元々図書館で読み聞かせなどのボランティアをしていた人が多く所属する。市内の図書館を中心に、市民に図書館や本を楽しく利用してもらえようという活動をしている。『西南図書館』とは協働して季節ごとの展示や講座を行い、リサイクルブックの販売や様々な講師を招いての講演会、落語会などオリジナルのイベントも運営。中でも紙芝居に関する事業は豊富で、上演会や、作り方・演じ方の講座を年に数回行っている。講座の最後には、習得した技術や自ら作った紙芝居を披露する場も。同会の代表・日根さんは「たくさん紙芝居も観てもらいたいんですが、自分たちで作って、演じる側にもなって、紙芝居の楽しさをより感じてもらえればい



『箕面市非常利公益活動団体 人と本を紡ぐ会』 代表 日根真理さん

取材協力 箕面市非常利公益活動団体 人と本を紡ぐ会 (箕面市立西南図書館内) TEL: 072-725-1022 MAIL: info@tsumugukai.com FAX: 072-725-6722 HP: http://tsumugukai.com